

# たいらけき

## ■ 楽曲データ

歌詞：大谷嬉子 作詞

楽曲：升田徳一 作曲

発表：－

初演：「安芸教区仏教婦人会連盟結成10周年記念大会」 1968年4月18日 広島市公会堂

初出：『めぐみ』第53号 1968年

管理番号：M2506

## ■ 創作の経緯

1968（昭和43）年、安芸教区仏教婦人会連盟結成10周年記念大会のために、仏教婦人会総連盟の大谷嬉子総裁（当時・第23代勝如上人裏方、1918～2000）の和歌に作曲。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『讃歌』 本願寺出版協会 発行年不明

比較資料：『めぐみ』第53号 1968年

校訂の詳細：特になし

## ■ 解説

### ◆ 作詞者・作曲者について

作詞者の大谷嬉子さま（第23代勝如上人裏方）は、人々が安全に平穏に暮らせる世の中を、ことのほか願われていました。毎年終戦記念日が近づくと、嬉子さまの和歌「千万のいのちの上に築かれたたいらけき世を生くる悲しさ」を口ずさみながら、平和の重みをかみしめる方も少なくないでしょう。嬉子さまご自身、沖縄戦でご兄弟を亡くされていますから、過酷な時代を生きねばならなかった人々の苦しみは、等しくご自分の苦しみであったことでしょう。

一方、現在に目を向ければ、頻発する自然災害や、国際的な情勢不安が懸念されるなかで、ふたたび「たいらけき世」を求める声が大きくなっているように感じます。

作曲は、広島県生まれの作曲家で、仏教讃歌《旅ゆくしんらん》を手がけたことでも知られる升田徳一（1911～没年不詳）が行いました。

### ◆ 歌い方のヒント

歌詞では、詠み手（歌い手）の内面が、次第に明るく拓かれていくことに注目しましょう。閉塞感の漂う1番から光を見出した2番へ、そしてついに3番では、おみのりによって「たいらけき世」の姿が確かなものとして捉えられます。ダイナミックな表現です。

その反面、音楽は穏やかさを表すゆるやかな6/8拍子ですので、詞の持つ性格と曲調を合致させるのが難しいかもしれません。言葉が上滑りすると台無しですので、まず歌詞にあらわれた大きな喜びや、信仰に生きる力強さをよく味わい、「たいらけき世」のイメージをしっかりと描き出しましょう。そのうえで、たゆたうようなメロディーに乗せて歌うようにすればうまくいくと思います。

解説執筆：石川紀久子（和歌山教区和歌山西組西往寺門徒）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第234号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.